

14-1 漁業及び増養殖【選択科目Ⅱ】

Ⅱ 次の2問題（Ⅱ-1、Ⅱ-2）について解答せよ。（問題ごとに答案用紙を替えること。）

Ⅱ-1 次の4設問（Ⅱ-1-1～Ⅱ-1-4）のうち2設問を選び解答せよ。（設問ごとに答案用紙を替えて**解答設問番号**を明記し、それぞれ1枚以内にまとめよ。）

Ⅱ-1-1 我が国で行われている長期漁況予報について魚種・海域・漁業種類の具体例を1組挙げて、その予報の内容について記述せよ。

Ⅱ-1-2 近年、国際自然保護連合（IUCN）が太平洋クロマグロを絶滅危惧種Ⅱ類に分類した。IUCNはワシントン条約（CITES：絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）との関連が深い。そこで、①IUCNのレッドリストとCITESの任務の関係、及び②IUCNの評価が今後の太平洋クロマグロ漁業に与える影響について記述せよ。

Ⅱ-1-3 干潟・浅場の環境改善手法である「客土」と「耕うん」について、それぞれの技術的内容と実施に当たり配慮すべき事項を記述せよ。

Ⅱ-1-4 従来から行われている海面での養殖は、養殖場の設置場所が制約されてきている。そのための養殖方式の1つである海水魚介類の閉鎖循環式養殖のメリットについて記述せよ。また、その実施例を1例挙げて記述せよ。

Ⅱ－２ 次の２設問（Ⅱ－２－１，Ⅱ－２－２）のうち１設問を選び解答せよ。（解答設問番号を明記し，答案用紙２枚以内にまとめよ。）

Ⅱ－２－１ 2012年（平成24年）年3月に閣議決定された「水産基本計画」において，「地域において実施体制が整った場合には，個別割当（IQ）についても利用を推進」することとされている。あなたが，個別割当を推進する責任者として業務を進めるに当たり，下記の内容について記述せよ。

- （１）実施組織（管理組織）の構成
- （２）個別割当の配分の決定
- （３）実施する上で留意すべき点

Ⅱ－２－２ 近年，漁業者や地域住民等が自ら藻場・干潟等を保全する活動を実施するようになってきている。それらの活動の一環で，技術指導担当者として藻場の磯焼け対策を実施する場合，下記の内容について記述せよ。

- （１）事前に把握すべき事項
- （２）藻場の磯焼け対策の要素技術の内容と実施に当たり配慮すべき事項
- （３）漁業者・地域住民等が自ら実施している藻場の磯焼け対策の問題点

14-1 漁業及び増養殖【選択科目Ⅲ】

Ⅲ 次の2問題（Ⅲ-1，Ⅲ-2）のうち1問題を選び解答せよ。（解答問題番号を明記し，答案用紙3枚以内にまとめよ。）

Ⅲ-1 沿岸漁業は，全漁業経営体数の多くの部分を占めるとともに水産物生産量の約22%（2012年）を占めているが生産量は減少傾向にある。一方，沿岸漁業は水産物の供給の他に加工や流通では地域経済な重要面を担っていて，さらに地域ごとの食文化を支えている状況にある。これらの状況を踏まえて，沿岸漁業に関する以下の問いに答えよ。

- (1) 沿岸漁業における現状と技術的課題を述べよ。
- (2) 沿岸漁業について2つの漁業種類を取り上げ，それぞれについて上記に示した課題のうち最も重要な技術的課題を抽出して，その課題解決のための対応策を提示せよ。
- (3) その対応策を実施した場合の効果や，それを実施する際に起こりうる問題点を述べよ。

Ⅲ-2 養殖漁業において生産量は，1988年の143万トンピークに近年は減少傾向にあり，その減少傾向には養殖業種により異なる様相を呈している。また，我が国の養殖技術は世界の養殖技術の発展に大いに寄与した面もあって，養殖業生産の増大が期待されている。そこで，給餌養殖業及び無給餌養殖業について，以下の問いに答えよ。

- (1) 給餌養殖業及び無給餌養殖業について，現状と技術的課題を述べよ。
- (2) 給餌養殖業及び無給餌養殖業について，それぞれについて上記に示した課題のうち最も重要な技術的課題を1つ抽出し，その課題解決のための対応策を提示せよ。
- (3) その対応策を実施した場合の効果や，それを実施する際に起こりうる問題点を述べよ。